

令和4年度神戸市人と猫との共生推進協議会 第3回定例会議録

1. 日 時

令和5年3月20日(月) 14:00~16:00

2. 場 所

神戸市中央区文化センター1111 会議室

3. 出席者

(1) 構成団体 11 団体の内 7 団体出席、2 団体委任状(規約第 6 条第 2 項の規定により会議成立)

(2) 出席者氏名 資料 1 出席者名簿のとおり(一般傍聴者 3 名)

4. 議 事

【報告事項】

(1) 野良猫の繁殖制限事業について(令和5年2月末現在)資料 p2~6

・本年度に地域猫活動等の支援申込は 164 件、情報提供は 40 件あった。

・一方、今年度も含め、既に支援を行った地域から猫の TNR について追加の申込があった地域は 272 件あった。

・事業部会で承認し、支援を行ったのは、今年度に新規支援申込があった地域が 166 件、過去の年度に申込があり今年度支援した地域が 10 件あり、計 176 件だった。なお、このうち重複している地域は 52 件あった。

・今年度も含め既に支援をおこなった地域で、追加の申請があり、本年度 TNR を行った地域が 272 件あった。

・手術については、全市で 350 の地域に対し 1,689 匹実施し、3 月の猫管理票の発行状況から最終的に約 1,900 匹と考えられる。手術の実施地域数、手術数とも垂水、長田、北、西区が多くなっている。

・雌雄の別では、雄 856 匹、雌 833 匹とほぼ同数であった。

・協議会事業の実績をプロットマッピングで見える化した。年度ごとに、申請状況マップでは、支援申込、情報提供別に、手術実施状況マップでは、手術数の多少がわかるように示した。申請状況は、6 年経過しても減少していないが、令和 3 年~4 年にかけて新規申請の手術数が減少している。手術数の地域の比較では、市街地域に手術が集中し、特に兵庫区から垂水区にかけて多く実施していることがわかる。

(2) 寄付・募金について…資料 P7

・3 月 13 日現在、6,181,956 円の寄付、募金があった。構成団体のフェリシモ、あいおいニッセイ同和損保からも寄付をいただいている。

・会長から昨年 12 月に寄付をいただいたあいおいニッセイ同和損害保険株式会社に感謝状を贈呈した。

(3) 協議会主催の譲渡会の開催…資料 P8~9

・4 月 24 日(日) こうべ動物共生センター、10 月 10 日(月・祝) こうべ動物共生センター・しあ

わせの村中央緑道で2回譲渡会を開催し、多くの保護猫がトライアルを経て新しい飼い主にもらわれた。

【協議事項】

(1) 令和5年度事業計画暫定案…資料 p10

- ・月1回開催する事業部会で支援申込や情報提供に基づき、TNRを進めていく。特に、情報提供で積み残しになっている地域を直営で実施し、年間1,670匹程度の不妊手術を予定している。このほか、TNRの検証、協力者の募集、登録も引き続き実施する。
- ・ガイドラインの周知、不適正な給餌者に対する指導啓発の実施とともに、研修会やイベントの開催も検討する。
- ・協議会主催の譲渡会を6月、12月にIKEA神戸、10月にこうべ動物共生センターで開催する。会の開催情報を提供していく。また、協議会ホームページで各団体の譲渡会情報を提供していく。
- ・このほか、定例会議、事業部会の開催や寄付金、募金集め、神戸市との連携や情報の共有を図っていく。

(2) 来年度予算暫定案…資料 p11

- ・収入として、17,500,000円を見込んでいる。内訳は、神戸市からの補助金として13,219,000円（予定。昨年度と同額計上）、このほか、繰越金として1,425,000円、募金、寄付として2,856,000円を見込んでいる。
- ・支出として、1,670匹分の野良猫の繁殖制限事業として16,290,000円、指導啓発として180,000円、猫の譲渡推進事業として234,000円、定例会議費として66,000円、事務費として500,000円、保険料130,000円、予備費として100,000円で収入と同額の合計17,500,000円としている。
- ・参考として、令和4年度の収支予算見込みを12ページに記載している。

※令和5年度事業計画暫定案、予算暫定案ともに承認された。

【連絡事項】

(1) 神戸市より

- ・条例の取組状況のほか、条例施行後の検証について取りまとめたものの報告があった。
- ・子猫の引き取りは年々減少しており、引き取った子猫のほとんどが譲渡できている。一方で、多頭飼育崩壊に伴う引取が増えており、これらの猫は高齢、病気などで譲渡が難しい猫が多い。
- ・猫の殺処分率について、国が定めた目標値である平成30年度比50%に対し、神戸市は25%を目指す（平成30年度227頭の殺処分を50頭以下に）。
- ・地域猫活動団体への支援強化として、令和5年3月から視認性の高いビブスを配布することとした。

・「犬猫とともに幸せに生きるまちにしたい！」をテーマとしたふるさと納税で、2月末時点で過去最高の48,842,000円が集まった。

・昨年10月～12月にかけて猫の殺処分減少をテーマにガバメントクラウドファンディングを実施し、4,325,000円が集まった。

(2) 出席者より

・協議会による不妊手術で野良猫が減ったという実感がある。今後は、高齢者がなくなった後に残された猫や多頭崩壊の猫などの対応にも協議会としてシフトしていくことが望ましい（猫ネット）

・協議会という組織がせつかくあるので、ヘルパーさんなど福祉部門との連携でサポートができる体制づくりしてもらいたい（ノッツ）

・多頭化の問題をもっと発信しないと、野良猫がへったらもういいとなってしまう（フェリシモ）

・現在、民生委員、あんしんすこやかセンターに情報提供を依頼している。飼い猫は個人の財産になるので、不妊手術などに公費を使用するのは検討が必要（市）

・市では、譲渡猫の飼い主の年齢条件を撤廃した。年齢制限で譲渡を受けることができない人はペットショップで購入してしまうから（市）

・フォルクスワーゲン垂水でネコのバスの譲渡会を開催する。成功すれば、ディーラー側にとってもメリットがある（あいおいニッセイ同和損保）

・市住や県住ではペット飼育不可が多いが、災害などが発生すると同行避難ができない。東京都は三宅島の災害の時に一部都営住宅でのペットの飼育を認めた。高齢者がペットを飼育できる住宅は人気がある。自分にもしものことがあれば、ペットの補償ができる仕組みづくりにビジネスがある（ノッツ）